

# こどもと健康

NO・153-2

2015・1・24

## インフルエンザ警報、発令中！

### インフルエンザ流行、急拡大！

昨年12月からこの5年間で最も早くインフルエンザの流行が始まりました。泉北ニュータウンでは庭代台中学校から学級閉鎖が始まり、庭代台小学校、上神谷小学校、榎塚台小学校へと拡大、2学期中に10校10クラスが学級閉鎖となりました。堺市では学年閉鎖が3校5学年、学級閉鎖が23校47クラスありました。御池台小学校ではインフルエンザによる欠席者が最多でクラス4名で留まり、学級閉鎖はありませんでした。年末年始にインフルエンザは成人を中心に大流行して、私が管理医師をしている堺市泉北急病診療センターでは5年前の新型インフルエンザの流行時に迫る位の患者さんが押し掛けました。1日最高651名を診療し、3分の2以上はインフルエンザAでした。内科医2名、小児科医3名では対応できず、内科医4名、小児科医4名の態勢で何とか切り抜けることができました。正月に急なお願いにもかかわらず、出務して頂いた堺市医師会の会員の先生方に感謝している所です。

年が明けて3学期が始まると、学校で流行が拡大し、全国的に見ても1月19日からの第3週の全国平均で定点当たり、37.0と警報レベルの30を超えており、都道府県別では宮崎県99.6と100に迫り、次いで沖縄県84.8、熊本県73.6と警報レベルを大幅に超えて、13県で50をオーバーする流行となっています。大阪府は26.9、堺市は29.4でした。1月19日からの第4週では堺市内で学年閉鎖が2学年、学級閉鎖が36クラスとなっており、最近になって流行は保育所、幼稚園に拡大しており、注意が必要です。今シーズン、インフルエンザの流行が始まって以来、A香港型が流行の主流で流行株の変異が進みワクチン株と隔たりがあるとの報告が日本だけでなく、アメリカ、ヨーロッパからもありますので、予防接種を受けた方も油断せず、うがい、手洗い、マスクで少しでも感染のリスクを下げましょう。幸い、タミフル、イナビル、リレンザ等の抗ウイルス薬は良く効くと言われています。

インフルエンザは冬に流行する「かぜ」と思われていますが、「かぜ」とは違って「インフルエンザ」と考えて下さい。つまり、普通の「かぜ」とは異なり、症状が強く命にかかわることもある病気です。その為、インフルエンザが流行すると、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者が脳炎・脳症、肺炎等の合併症により亡くなることがあります。特に、高齢者では肺炎球菌の二次感染による肺炎で亡くられる方が多く、昨年から堺市では65歳以上の高齢者に肺炎球菌ワクチンを自己負担金4000円で接種できますので、一度も受けられていない方は早めの接種をお勧めします。当院でも接種できますので、予約をお願いします。

# RSウイルス感染症再び、流行！

例年、寒くなるとRSウイルス感染症が増えてきます。インフルエンザウイルスと同じく、冬の「かぜ」ウイルスですが、今年は8月末から保育所を中心に流行が始まりました。潜伏期は4～5日で鼻水、鼻づまり、咳があり、発熱を伴う事もあります。乳幼児特に、1歳未満の乳児が罹ると、更に喘鳴（ヒューヒュー、ゼーゼー）を伴った咳をして高熱も出て呼吸数も増し、息苦しくなることがあります。ウイルスを含んだ鼻汁や分泌物が気管支に流れこむ為、気管支炎から細気管支炎、気管支肺炎が起こるのです。次第に哺乳できなくなり、新生児では無呼吸になることもあります。乳児は急速に気管支炎、細気管支炎から気管支肺炎へと進行することがあるので、注意が必要です。8月末から流行が始まり9月末をピークに一旦減少しましたが、11月中旬になって再び増加して年末には乳幼児ではインフルエンザと同じ位に流行しています。今シーズンになって当院から4名が気管支肺炎を合併して入院されました。迅速検査がありますので、強い咳や喘鳴を伴う乳幼児は早めに受診しましょう。

## みずぼうそうワクチンを接種しましょう

保育所、幼稚園で毎年乳幼児に流行する「みずぼうそう」ワクチンが日本でも昨年10月からやっと定期接種化されて無料になりました。対象は1歳と2歳児で1歳のお誕生日がすんだらMR（はしか・風疹混合）ワクチンと同じ時期に1回目の接種をします。2回目の接種はMRワクチンが就学前の年長児ですが、みずぼうそうワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。ワクチンを接種すると1ヶ月位で免疫は95%程度出来ませんが、時間の経過と共に減衰して保育所などで流行すると軽く罹るケースが結構あります。これを避ける為に、2回目のワクチンは6ヶ月～1年後に接種します。既に罹った方や2回接種した方は対象外で、1回接種した方は6ヶ月以上あけて2回目を接種します。尚、本年度に限り（平成27年3月31日まで）3、4歳児も1回だけ接種できますが、過去に1回でも任意接種を受けた人は対象外となりました。既にみずぼうそうに罹った人も対象外です。1歳のお誕生日になると、はしか・風疹混合（MR）ワクチン、みずぼうそうワクチンの1回目とヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンの追加の4本の接種が必要となります。4本の同時接種も可能ですが、3回目のヒブワクチン接種から7カ月あける必要がありますので2度に分けて接種されても構いません。

## 母子手帳で予防接種漏れを確認しましょう

予防接種は感染症から人類を守る大切なものです。昔は「命定め」と言われた「はしか」は全国でここ数年200～400名に留まり、亡くなられた方はありません。4年前に始まったヒブワクチンはわずか3年でヒブによる髄膜炎を98%減少させました。風疹も昨年後半から散発的に出ますが、先天性風疹症候群の報告はなくなりました。このように感染症の予防に重要な役割を果たしています。入学するまでには年に一度は母子手帳で接種漏れがないか確認する習慣をつけましょう。受診の際に、母子手帳を持参されれば、任意接種のワクチンも含めて、ご相談に応じます。ワクチン接種によって感染症から子ども達を守りましょう。